

後慶寺跡（北向きの墓）

所在地 宮城県加美郡加美町平柳字矢ノ目浦

指定 加美町指定史跡 昭和 54 年 3 月 31 日

概要

出羽小国城代細川摂津守の孫にあたる小国蔵人は、戦いに敗れ、自らも手負いになりました。しかし、家臣たちの奨めにより再起を計るために、数人の家臣と共に田代峠を越えて、家老の縁故の地である矢ノ目の里に落ち延び、その後伊達政宗に仕えて矢ノ目の領主として落ち着きました。故国に居残った重臣や妻が悲業の最後を遂げたこのことを、出羽街道を往来する旅人から伝い聞いたので、今はこれまでと刺髪して入道となり、独遊一徳斎と号して静かな悟りの生活に入りました。武術指南のかたわら、地方民の教化に、産業に余生を捧げました。

貞享元年（1684）6月14日「小国に通う旅人の姿が見えるように北向きに葬ってくれ」と遺言して81歳で息を引き取りました。

